

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.23 2018年11月30日(金)

都道府県向け署名 最終盤 **すべての都道府県・学園で昨年数超過にこだわった取り組みを!!**
新潟:中越高校で昨年数超過

にいがた私学助成すすめる会ニュース

子どもたちが学費を心配せず、学校で学べるように、私学の学費も無償に!

2018年11月30日

新潟県私学の公費助成をすすめる会

新潟市中央区弁天橋通1-13-13

TEL 025-286-7600

中越4万超、昨年実績を突破!

すべての学校で昨年実績突破を 花角県知事へ昨年を上まわる署名を 直接手渡ししましょう

私学署名のとりくみは、最終版をむかえました。各学校では、集約に追い込みがかかっています。中越からは、二十二日の集約時点で昨年実績の三万九千筆を突破し、四万筆を超えたとの嬉しい報告が入りました。目標の五万五千筆にむけ、さらに奮闘中です。新発田中央は、同日の集約時点で一万五百筆に到達し、昨年実績まであと二千五百筆に迫っています。関根学園は、一万三千筆を集約、昨年実績まであと一千九百筆まで到達しました。その他の学校でも、未提出の教職員への働きかけ、父母への再度のお願いや、署名数増にむけ奮闘中です。私教連の宮腰委員長は、現在一人で一千五百筆に達しています。卒業生一人ひとりに手紙を書き署名協力を依頼、多くの卒業生から近況を知らせる手紙とともに署名が届けられています。「すすめる会」事務局では、十二月十七日(月)を最終集約日と考えています。あと約半月、中越の奮闘に続き、すべての学校で昨年実績を超え、今年こそ署名数増を実現しましょう。そして、花角県知事に署名を直接手渡しし、来年度県予算で私学助成予算の増額・拡充を訴えましょう。

「すすめる会」中村会長、花角知事に懇談を申し入れ

「すすめる会」の中村直美会長は、十一月十一日、新発田市長選挙立候補者の激励会に花角県知事が訪れるとの情報を得て、早速会場を訪れました。中村会長は、会場に姿を見せた花角知事に直談判。現在知事あての要望署名を取り組んでいること、署名提出時には直接知事に手渡し懇談したい旨を要望しました。これに対し花角知事は、「調整させてもらいます」と応じました。現在、県私学振興課を通じて、知事へ署名を手渡し懇談ができるよう要請中です。

学費ホットラインに二〇件の相談 例年よりも多くの相談寄せられる

「すすめる会」と「私学父母の会」は、例年一月のみに実施していた中学三年生の保護者を対象にした「学費ホットライン」を今年十一月にも実施することを決め、今日二十五日に開設しました。これは、中学校側から進路相談を始める直前にも「学費ホットライン」を開設してほしいとの要望があったのを受けおこなったものです。

事前に、新発田市、新潟市、長岡市、上越市の主要な市の中学校へ案内を送付、あわせて「私立高校の学費助成制度・奨学金ってなあに?」「すすめる会」「私学父母の会」(作成)も同封して宣伝しました。マスコミにも事前告知記事掲載を依頼、新潟日報が二十三日付で案内記事を掲載しました。

こうした宣伝効果もあり、開設時間開始の午前一〇時を少し過ぎたところで電話が鳴りはじめ、終了時間の午後五時近くまで電話が断続的に鳴り続けました。その日は十八件の相談が寄せられ、前日の一件と翌日の一件とをあわせ、合計二〇件の相談が寄せられました。例年より多い相談件数となりました。

相談では、母子家庭や父子家庭、非課税世帯など厳しい家計状況にある保護者からの相談が半数近くを占めました。「子どもが私立を希望しているが、学費がけっこうかかるのではないか。学費負担を軽減する制度があったら教えてほしい」「公立を第一希望、併願で私立をと考えている。私立に行くことになれば学費の負担が大変になるのではないか」など、私立高校の学費負担を心配する声が多く聞かれました。これに対し、国と県の学費助成制度の内容を丁寧に説明し、学費がどのぐらい軽減されるかを伝えると、少し安心する保護者も見られました。

相談には、私教連の役員や事務職員が対応しました。相談員となった教職員は、「中学生の保護者は、私立高校学費に対する国や県の軽減制度をまだ十分知らない。国や県行政からの保護者への周知徹底が必要だ」との感想を語っていました。

「学費ホットライン」は、来年一月にも開設する予定です。また、「すすめる会」事務局では中学校への案内も現在の四市からさらに広げていくことも考えています。

